

会報

# 国鉄闘争全国運動

国鉄分割・民営化反対！ 1047名解雇撤回！

134号  
2021年7月15日

国鉄分割・民営化に反対し 1047名解雇撤回闘争を支援する全国運動事務局  
千葉市中央区要町2-8 DCC会館内  
Tel 043-222-7207  
nationwidemovement@yahoo.co.jp

## 千葉市民会館で7・4全国集会を開催

# 今こそ労働運動の再生を

## 「分割・民営化型攻撃に立ち向かう」

千葉労働委員  
委員長



### 東京地裁宛て 行政訴訟署名 5305筆 (21年7月15日)

### 関生支部 「関生弾圧と労働運動の展望」 武委員長

7月4日、千葉市市民会館大ホールで、国鉄闘争全国運動の集会を開催した。  
国鉄1047名闘争勝利に向けた支援を訴えるとともにJRの大再編情勢と全面的に対決する闘いの決意を示す集会となった。また7月13日に予定されている関生支部・武委員長への反動判決を粉砕する意味でも決定的集会となった。

集会では、動労千葉の関通利委員長が「国鉄・分割民営化型の大攻撃に立ち向かう」と題して講演、続いて関西生コン支部の武建一委員長が、「関生弾圧と労働運動の展望を語る」と題しての講演(ビデオ)が行われた(裏面に要旨)。

集会冒頭、国鉄闘争全国運動呼びかけ人の伊藤晃さんが前日の討論集会について報告した。続いて外房線・内房線の合理的な議論を出すと述べた。

さらに中央労働委員会は、国鉄分割・民営化による不当解雇の具体的な事実関係について「適法性の判断と関係はないから認否の必要はない」として、事実として認めるかどうかさえ明らかにしようとしていない。

組合側弁護団は、労働委員会が認否を必要ないという以上、組合側の主張を前提にして審理を進めるように裁判所に迫った。

だが裁判所は「JR東日本が訴訟に参加するか否かによっても判断が変わる」「次回までに考えた」として判断を先延ばしにした。

中央労働委員会が必死に隠蔽しようとした「国鉄改革の真実」を明らかにすることこそ、この裁判の最大の核心だ。そのためにはJR東日本を裁判に参加させ、葛西JR東海名誉会長、深澤JR東社長などの証人尋問を行うことは絶対に必要だ。そこから逃げることは断じて許されない！

署名運動の成功を  
裁判に先立ち、解雇撤回・JR復帰、団交開催署名の提出行動を行い、1435筆(累計5198筆)の署名を提出した。

署名運動を全国で展開し、その力でJR東日本を法廷に引きずり出し、裁判所に徹底した審理を行わせよう。解雇撤回・JR復帰まで、全力で闘いぬこう。

討論集会で4人が報告しました。労働運動の新しい芽生えを感じさせられました。11月集会に向けて多くの運動の場でも多くの試みがなされることを期待したい。

●中村仁さん  
「自分が悪い」「仕方がない」を強制的に資本の攻撃に対して、自分を変えるのではなく社会を変えたいと多くの人が気づいている。時代の山は必ず動きます。

●羽廣憲さん  
34年経った今でも当時の怒りは一切消えることはありません。一歩も引きません。これからは本番、解雇者の名誉をかけた全力で闘いたい。

●小玉忠憲さん  
不採用にした下手人が今のJR東日本深澤社長だ。必ず勝利して報復してやる。そのために私たちはとことんやりませう。

●葉山岳夫さん  
中労委は不当差別事件であることを隠蔽し、JR東の盾になっている。真実を公正に判断させるには、国鉄闘争を全労働者の闘いと位置づけ徹底的かつ大結集して闘う必要がある。

●武谷新吾さん  
産別運動つづし、労働組合つぶしに勝利するまで闘います。無罪判決を勝ち取り、組織拡大と現場行動を実践し、最終的には大衆行動で打倒します。

●金元重さん  
これから何をすべきかを明確にすることが大事だ。その点では昨日の討論集会に続いて今日の集会は非常に成功したのではないかと。裁判闘争は法廷だけの闘争では勝てない。ぜひ署名がんばってください。

### JR復帰第3回行政訴訟 署名1435筆を地裁に提出

7月2日、国鉄1047名解雇撤回・JR復帰、団体交渉開催に向けた第4回行政訴訟が行われた。裁判闘争には、1047名解雇当該の組合員、動労総連合1047協議会の小玉さん、羽廣さん、動労千葉各支部組合員と支援が参加した。

今回の裁判の大きなテーマの一つがJRの訴訟参加だ。中央労働委員会側の意見書は「組合側の主張が認められることはいないからJR東日本を参加させる必要はない」というあまりに無茶苦茶な内容だ。裁判所も「中労委の主張は通常とは異なる」「悩

んでいる」と言わざるを得なかった。その上で「8月末までには結論を出す」とした。

組合側弁護団は、労働委員会が認否を必要ないという以上、組合側の主張を前提にして審理を進めるように裁判所に迫った。

だが裁判所は「JR東日本が訴訟に参加するか否かによっても判断が変わる」「次回までに考えた」として判断を先延ばしにした。

中央労働委員会が必死に隠蔽しようとした「国鉄改革の真実」を明らかにすることこそ、この裁判の最大の核心だ。そのためにはJR東日本を裁判に参加させ、葛西JR東海名誉会長、深澤JR東社長などの証人尋問を行うことは絶対に必要だ。そこから逃げることは断じて許されない！

### 関生弾圧と労働運動の展望を語る

全日建連運輸労組関西地区生コン支部委員長 武建一

関西生コン支部とは、階級性と大衆性を結合した階級的な観点で闘う組織であり、社会的な任務を3つ考えている。

#### 社会的な3つの任務

##### ①経済闘争

資本は、複雑な賃金体系で労働者が競争し合うような制度を導入する。資本にとって支配しやすくする賃金構造を関生は認めない。年功序列型賃金ではなく、春闘で賃金を決めるやり

##### ②政治闘争

年金改悪とか税金、金融政策など、政治課題は私たちの生活に直結する。それらに対する提言、加えて政治反動の象徴である戦争政策、反戦平和の闘いを一貫して追及してきた。

##### ③思想闘争

物の見方、考え方、社会の発展法則、マルクス経済学を学ぶ。これを通して労働者としての階級性を身につける。労働学校を開校して中小の経営者も一緒になって学べるようにしてきた。職場における権利侵害を一切認めない。やがて権力の導入に一步も引かない。やられつら返す。不当労働行為の「やり得」を認めない。企業に二度と不当労働行為は得策ではないということに強制的にいく。今回の弾圧はそれを狙って来た。



年功改悪とか税金、金融政策など、政治課題は私たちの生活に直結する。それらに対する提言、加えて政治反動の象徴である戦争政策、反戦平和の闘いを一貫して追及してきた。

職場における権利侵害を一切認めない。やがて権力の導入に一步も引かない。やられつら返す。不当労働行為の「やり得」を認めない。企業に二度と不当労働行為は得策ではないということに強制的にいく。今回の弾圧はそれを狙って来た。



## 7・13判決

### 武委員長への実刑を阻止

#### 「懲役3年・執行猶予5年」の不当判決



「関生弾圧は労組活動を企業内に閉じ込める改憲の動き。これからも産別労組として正当な要求を掲げ断固としてストライキで闘う」(武建一委員長)

7月13日10時、大阪地裁において関西生コン支部の武建一委員長に対して判決がありました。この裁判には遠くは北海道など全国の支援者400名以上が駆けつけ、権力と結託した使用者団体・大阪広域生コン協同組合の300人弱の動員を大きく凌駕し、圧倒するものとなりました。

判決は、滋賀県のF社の工事現場に対するコンプライアンス活動事件、2017年12月のセメントステーションなどにおけるストライキ事件、さらに、T生コンからの1000万円の会

交渉も、個別もするが集団交渉を行う。そのためには産業構造を民主的に改革していく産業政策が必要。労働者にとって働きやすい環境のためには、中小企業は大企業の収奪構造に対して、労働組合との連携協力を展開した政策をつくる。ストライキこそ労働者にとって最大の有力な武器。集中的な抗議行動や自動車パレードなど大衆行動を組織・展開する。活用できる法制度はおおいに活用する。行政交渉、国会請願なども活用し運動展開する。

JR東日本の「柔軟な働き方」という提案に職場には衝撃が走っている。鉄道の現業部門のすべての職名を廃止し、駅や運輸区という現業機関を統合し、そこに駅店舗など生活サービス部門なども融合する。勤務は毎日の仕事はクルクルと変わっていく姿だ。

「偽装請負」等の制約を解体し、現業すべての分社化・転籍を一挙に進め、大規模な外注化、労働者の総非正規職化・低賃金化の攻撃だ。月60時間までグループ会社での「副業」制度も始まった。さらに、大規模なワンマン化・車掌廃止のすさまじい拡大。

駅では「みどりの窓口」の7割廃止、休業・一時帰休を「指定」できる就業規則の改悪、またCTSでも、労働者を徹底的に愚弄した「同一労働同一賃金」対応が強化されている。こんな非人間的なやり方は、

### 分割・民営化型の大攻撃に立ち向かう

国鉄千葉動力車労働組合委員長 関道利

JRで働く労働者をポロポロに破壊する。怒りの声は必ず噴き出す。安全の崩壊、重大事故が激発する事態を生み出し、技術継承が断絶する。先日の山手線・渋谷変電所の事故はその一端を示している。

1981年の第2臨調設置―国鉄分割・民営化から始まった日本における新自由主義政策は、自らが生み出した矛盾によって全面的な崩壊過程に入っている。

職場・産別・地域、様々な運動の中で、敵の矛盾・弱点がどこにあり、味方を団結させることのできる方針・展望がどこにあるのかを必死につかみとって具体的な闘いに組織しよう。労働者が団結

し、外注化阻止闘争、反合・連転保安闘争の再構築、そして組織拡大闘争への総決起をもって立ち向かう方針を決定した。

### 国鉄闘争の意義

国際連帯を強化することが大事。国内では、みなさんと11月労働者集会を20年以上毎年やっているが、これは日本労働運動の再生にとって大きな起爆剤となるのではないかと一層強化していかなければならない。

特に国鉄労働者の闘いを勝利させていく。4党合意はJRが雇用責任を負わないとんでもない合意だった。しかし、断じてそれを許さないという闘いは力強く全国に発展している。

日本労働運動再生の大きな中心的な役割を担っているのが国鉄労働運動の闘いだ。資本主義が限界にきている。人類の長い歴史において資本主義はごく短い間の制度であり、永遠不滅でない。労働者と資本家との階級対立が不可避だ。コロナ禍でそれが鮮明に現れている。業種別、産業別的な組織形態を形成し、あるいは人権擁護の闘いなどを全国に発展させていく運動が求められている。

「偽装請負」等の制約を解体し、現業すべての分社化・転籍を一挙に進め、大規模な外注化、労働者の総非正規職化・低賃金化の攻撃だ。月60時間までグループ会社での「副業」制度も始まった。さらに、大規模なワンマン化・車掌廃止のすさまじい拡大。

駅では「みどりの窓口」の7割廃止、休業・一時帰休を「指定」できる就業規則の改悪、またCTSでも、労働者を徹底的に愚弄した「同一労働同一賃金」対応が強化されている。こんな非人間的なやり方は、

し、外注化阻止闘争、反合・連転保安闘争の再構築、そして組織拡大闘争への総決起をもって立ち向かう方針を決定した。

検修・構内外注化攻撃が完全に破たんし業務を回せなくなっている現実の中、70歳までの雇用努力の法制化にも係わらず、65歳以上の雇用延長を拒否するJR・CTS双方に対し不当労働行為の申し立てを行う。

「偽装請負」等の制約を解体し、現業すべての分社化・転籍を一挙に進め、大規模な外注化、労働者の総非正規職化・低賃金化の攻撃だ。月60時間までグループ会社での「副業」制度も始まった。さらに、大規模なワンマン化・車掌廃止のすさまじい拡大。

駅では「みどりの窓口」の7割廃止、休業・一時帰休を「指定」できる就業規則の改悪、またCTSでも、労働者を徹底的に愚弄した「同一労働同一賃金」対応が強化されている。こんな非人間的なやり方は、

し、外注化阻止闘争、反合・連転保安闘争の再構築、そして組織拡大闘争への総決起をもって立ち向かう方針を決定した。

検修・構内外注化攻撃が完全に破たんし業務を回せなくなっている現実の中、70歳までの雇用努力の法制化にも係わらず、65歳以上の雇用延長を拒否するJR・CTS双方に対し不当労働行為の申し立てを行う。



さらに、国鉄1047名解雇撤回闘争の勝利へのあと「一歩」をつめきる闘いを強化する。敵の攻撃は矛盾に満ちている。動労千葉のような小さな労組の闘いでも労働者が団結を守り、本気で闘えば資本の思い通りになどさせない力をもっていることを示してきた。

労働者の反撃があれば、攻撃は必ず破たんする。必要なのは労働組合の再建だ。関生弾圧を粉砕するために全国の力を結集しよう。改憲と戦争の危機に立ち向かおう。



融合化攻撃はJR東日本の約3割を占める乗務員の大リストが焦点だ。ワンマン化・車掌廃止反対闘争を職場の闘いと地域ぐるみの闘いを結合して全力で強化する。闘いによって鉄道を取り戻す。これは新自由主義に対抗しうる労働運動の構想をつくりあげることしかたない。

融合化攻撃はJR東日本の約3割を占める乗務員の大リストが焦点だ。ワンマン化・車掌廃止反対闘争を職場の闘いと地域ぐるみの闘いを結合して全力で強化する。闘いによって鉄道を取り戻す。これは新自由主義に対抗しうる労働運動の構想をつくりあげることしかたない。